

日本生殖看護学会ニュースレター

No.32

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

目次

特集：日本生殖看護学会 設立10周年を迎えて.....	1
日本生殖看護学会設立10周年記念式典のご案内.....	4
第10回日本生殖看護学会学術集会のお誘い.....	4
第8回生殖看護実践セミナー.....	5
これから行われる学術集会・研修会等のお知らせ（2012年9月後半～10月）.....	5
勉強会の支援・勉強会等の運営費の助成.....	5
勉強会報告（関東地区）.....	6
不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.12.....	6
理事会報告.....	7
掲示板.....	7
もし看護の現場で行き詰ったら.....	8
事務局からのお知らせ.....	8



特集：日本生殖看護学会 設立10周年を迎えて

不妊看護ネットワークから始まり、2003年に産声をあげた日本生殖看護学会は、会員の皆様に支えられ、今年10周年の節目を迎えることになりました。そこで、今号ではこれまでの歩みを振り返ると共に、歴代の理事や関係者からのメッセージをご紹介します。

●会員数の推移（各年度の総会での発表数）

	一般会員数	賛助会員数	会員数合計
2003年*	274	1	275
2004年	162	2	164
2005年	206	3	209
2006年	242	3	245
2007年	263	3	266
2008年	292	3	295
2009年	312	3	315
2010年	304	3	307
2011年	307	3	310

*学会設立総会時発表人数（2003年9月25日現在）

●学術集会

	テーマ	大会長	開催年	開催地
第1回	期待される不妊看護への道	森 明子	2003	東京都
第2回	不妊とカップルの性を考える	浜崎 京子	2004	東京都
第3回	不妊看護の専門性の追求と発展	森 恵美	2005	千葉県
第4回	社会に向けて発言しよう：生殖医療の現場とサポーター	遠藤 俊子	2006	山梨県
第5回	生殖看護における対象理解：次世代に通じる看護を目指して	福田貴美子	2007	福岡県
第6回	カップルの親密さ：危機を乗り越えるための方略	野澤美江子	2008	兵庫県
第7回	文化の視点から生殖看護を考える	村本 淳子	2009	三重県
第8回	不妊の意味を考える：治療開始から終結に向けて	岸田 佐智	2010	徳島県
第9回	生殖看護の実践を目指して：妊孕性維持の支援	上澤 悦子	2011	東京都
第10回	第三者の関わる生殖医療における看護の役割	清水 清美	2012	神奈川県

「支援する人への支援を行う人の、支援」を誓う

公益社団法人 日本看護協会 福井 トシ子

日本生殖看護学会設立10周年おめでとうございます。私は、平成3年当時から10年間ほど高度生殖医療が必要とする女性とパートナーへのケアを経験しました。当初は、新生児と一緒のフロアであることや妊娠、分娩、産褥期にある女性と同フロアで治療を受けなければならない女性のケアの場をどのように整えるべきか、戦いの日々でした。

一方、妊娠を希望する女性のケア経験を持たない看護職の実践能力を獲得するための準備や、心理社会的、経済的、身体的なケアを行える看護職へと成長していかなければならない時期に、本学会の前進である研究会に参加させていただき、学会へ発展する時期にも携わらせていただきました。臨床でおきていることへのジレンマを心地よく整理してくれる場所が、本学会でした。

ケアをする人々をケアする、支援をする人々を支援するということの意図を明確にもった本学会の存在が、設立10周年を迎え、多くの人々の支えになっていることを感慨深く思うと同時に、大変嬉しく思います。現在は一会員として本学会の益々の発展へ寄与できるよう、「支援する人への支援を行う人の、支援」を誓います。本学会の益々の発展を祈念いたします。

「不妊看護ネットワーク」から

「日本生殖看護学会」への歩み

日本遺伝看護学会理事長 有森 直子

日本生殖看護学会設立10周年、おめでとうございます。本学会の創世記から関わらせていただいた会員として、とてもうれしく思います。不妊看護に携わる看護師を中心として、ケアに必要な情報交換をめざした「不妊看護ネットワーク」が聖路加看護大学でスタートした日を懐かしく思い出します。看護職は、それだけ不妊に悩む人々の声をキャッチしていました。現在は、不妊症看護認定看護師が誕生し、着実にケアが変化していることを頼もしく感じています。

また、学会のメンバーとともに「不妊患者支援のための看護ガイドライン—不妊の検査と治療のプロセス—」(2001年)を作成し、思春期から更年期までのライフサイクルにわたる「不妊看護フレ-

ムワーク」を明らかにしたことは、自分の「不妊」という現象に対するスタンスを確認する機会となりました。現在のケアがどこまで到達できているのか、検証の時期にあるかもしれません。同じ時期にスタートした「日本遺伝看護学会」も昨年10周年を迎えました。遺伝と生殖は切り離せない関係にあります。日本遺伝看護学会の理事長とし、両学会の協働を図っていきたいと思います。

この10年を振り返って

医療法人 蔵本ウイメンズクリニック

看護師長 村上 貴美子

(不妊症看護認定看護師1期生)

日本生殖看護学会設立10周年、誠におめでとうございます。

長い時間が経ちました。私が生殖看護に転身したのは1995年。その頃の生殖医療は医師と患者さんがひたむきに治療に取り組み、看護は不在に近い状態でした。私はある学会のシンポジウムで座長の森明子理事長と出会い、それがこの学会とのご縁の始まりでした。当時は、現理事の皆様に加え、福井トシ子さん(日本看護協会常任理事)や浜崎京子さん(中央クリニック)らもおられ、暗中模索の時代に生殖看護について沢山の事を教えて頂きました。2003年にネットワークは学会に発展し、2007年には更なる発展として日本生殖看護学会へ名称変更しました。私は恐縮にもその年に第5回学術集会会長を拝命し、9.9の日に161名の参加者が福岡を訪れてくれました。

初期の時代から思えば、看護の対象も変わりました。先端技術を使うARTへの不安から、今やARTでの出生児は40人に1人(2009)。現在では、第3者が介在するAID、卵子提供を受ける家族を法的整備のない中でどのように支援すべきなのか、さらにがん治療前の配偶子や性腺の凍結保存という生命維持治療と妊孕性温存のはざまに悩む方への支援等、私達の役割も時代とともに変化しています。10年は長いようで短いのかもしれません。私達が向き合う患者さんは、この先もっと長い人生を送ります。その方達が、この治療を人生の中で大切な体験だったと思えるよう、いつの時代でもその役割に応えられる看護師でありたいと10年を振り返って思いました。これからもまたよろしく願い致します。

生殖看護の発展を祈って

小川 さゆり (助産師 元・聖路加国際病院)

「元気だった？」という仲間の笑顔に出会え、皆様の“熱意”と“この分野の発展の目覚しさ”が感じられる学術集會に参加できるのは毎年の楽しみです。

学会の前身「不妊看護ネットワーク」との出会いは大先輩である森明子先生からのお誘いで、当初からニュースレター発行に携わりました。慣れないパソコンと格闘しながらの作業で、一緒に企画・編集・発行した仲間は総合病院で3交代勤務。ずいぶん負担をかけてしまったと、今頃反省しています。本当に申し訳ありませんでした!!

学会移行後1期目は幹事、2期目は理事として実践開発委員会で浜崎京子さん、村上貴美子さんと活動しました。相談メールが届くと、お2人は専門的な文章の中にいつもユーモアと暖かい言葉が詰まったメールを返信されました。この出会いも私の大切な財産です。また、2008年度に「不妊症看護認定看護師の活動に関する実態調査」に加わった際は、認定看護師の皆様の多岐に渡る活躍が見え、存在の大きさを実感しました。

学会活動を通して、臨床や教育の様々な場所にいらっしゃる方々とお会いできたことで、看護の幅も広がったように思います。ありがとうございます。今後より質の高い看護を提供するためには、臨床と研究機関の協働が大切だと思います。これからも学会を身近に活用して皆様とともに正確な知識を持って技術を磨き、対象者に寄り添うケアが実践できる看護者でありたいと思います。

この10年間を振り返って

大宮レディスクリニック 塩沢 直美

日本生殖看護学会、10周年記念おめでとうございます。

思えばあっという間の10年間であったように思います。この10年間を振り返ってみますと、この学会がたち上がったのは、私が生殖医療に携わって数年たった頃でした。

当時、学会の会員数が多いわけではありましたが、壇上には経歴豊富な教授陣の諸先生方が並ばれ、今後この学会がどのような発展を遂げるのか期待する瞬間でありました。

理事任期中、私がお役に立てることがあったなら自己注射について厚生労働省とのヒアリングに参加させていただき、現場の実践活動や資料を提供することができたことではないかと思えます。任期後は、生殖看護学会の実行委員として活動することで、微力ではありますが学会のお手伝いできたのではないかと思えます。

現在学会員は300名を超え、認定看護師は100名を超えました。私たちの活躍によって生殖医療に対する社会のニーズに対して日本生殖看護学会がより盛大に発展を遂げていくことを願っております。

不妊を超えて／看護を超えて

鈴木 良子 (フィンレージの会・スタッフ)

何年前か前、本ニュースレターで「不妊ってそんなに“特別”なケアが必要？ トキじゃあるまいし」と書いた。それは不妊ケアの目標が“妊娠”、そして研鑽の中身がそのための“技術／スキル”に陥っていくことへの危惧からだったと思う。10年たち、その危惧はすっかりなくなった。生殖に携わる看護職が“妊娠”を目標にしているのではないことは、十二分にわかった。

が、しかし。“患者”の願いは10年前も今も(たぶん100年たっても)変わらない。それは「妊娠」。でもねー、不妊治療／生殖技術は100%応えられないのよ。でもじゃあ、不妊のサポートっていったい何？ 不妊ケアって何？

……と、不妊自助グループスタッフ歴20年の私は相変わらず自問自答。看護職の人も同じようなジレンマに陥ってたりするんじゃないかな～などと思いつつながら。そして多分これは、人にとっての生殖の意味、子どもの意味、家族の意味を見つめ直すことでしか超えられないだろうな、と思う。

本学会にも、そうした幅広い意味での人の性と生殖・家族、そして女性だけでなく男性の性と生殖を見つめてほしい。そんな専門家集団になってほしい。いつの日か“不妊”を越え、さらに“看護”という概念をも大きく超えて……。



●●● 設立10周年記念式典のご案内 ●●●

学会設立から10年を祝して記念式典を開催します。式典では本会の10年の歩み、優秀論文の表彰、学会ロゴの発表、ホームページの刷新公開、また特別イベントとして、豪田トモ氏が企画・撮影した「うまれる」の映画上演等を予定しております。皆様の参加をお待ちしております。

開催日時：2012年9月8日（土）13：00～

開催場所：聖路加看護大学 ミセス・アリス・セントジョン記念ホール（東京都中央区明石町10番1号）

*プログラムの詳細は、前回別送しましたチラシ及びホームページをご覧ください。<http://jsin.umin.jp/jsin10thkinen.pdf>

●寄付のお願い

記念式典の準備・運営のため、皆様からのご支援を呼びかけております（目標額50万円）。お振込先は下記の通りです。口座番号：00110-1-616914 加入者名：日本生殖看護学会設立10周年記念事業

●学会への一言メッセージをお寄せください

式典では皆様からの一言メッセージをご紹介します。学会への期待や要望をお寄せ下さい。当日は、10分程度の動画に編集しご紹介させていただきます。ご協力いただける方は、7月31日（火）までに以下のいずれかの形式で、総務担当：清水（kiyomi.ns@iuhw.ac.jp）にメールでご送信ください。

- ①メッセージ（メールでもワード添付でもOK）+可能なら写真もお願いします（JPEG形式）
- ②音声ファイル（MP3またはAIFF形式）+写真（JPEG形式）※Windows「サウンドレコーダー」の場合は変換ソフトを用い、MP3ファイルに変換してご送信ください。
- ③ビデオ（QuickTime形式：拡張子は.MOV）※Windows「ムービーメーカー」等による編集・書き出しは行わず、素材そのまま（MOV）でご送信ください。

「第三者の関わる生殖医療における看護の役割」 ——第10回日本生殖看護学会学術集会にご参加ください—— 2012年9月9日（日） 国際医療福祉大学 小田原キャンパス

非配偶者間の人工授精のみならず、卵子提供による妊娠を求めて海外渡航するカップルも増加しています。今回の学術集会はこうした第三者の関わる生殖医療の現状を理解すると共に、看護における課題を明らかにしていきます。教育講演はこのテーマのスペシャリストでもある不妊カウンセラーのPetra Thorn（ペトラ・ソーン）氏、またシンポジウムでは医師、看護職、心理カウンセラーのほか、この技術で親になった人、そして産まれた人も発言致します。事前申し込みは8月10日（金）が締切です。多くの皆さまの参加をお待ち申しあげております。

■参加費および申し込み

事前申し込み：会員5,000円、非会員6,000円、学生（大学院生・研修生は除く）1,000円

当日参加：会員6,000円、非会員7,000円、学生（大学院生・研修生は除く）2,000円

※事前申し込みは下記の指定口座へお振り込みください。

郵便振替：00260-0-85319 加入者名：第10回日本生殖看護学会学術集会

■第10回日本生殖看護学会学術集会事務局（担当：堀金幸栄）FAX 0465-21-6647

学術集会専用 e-mail：jsfn10@iuhw.ac.jp

学術集会 HP アドレス：http://jsfn10th.jp/

第8回生殖看護実践セミナー

セックスレス・カップルや性交障害をもつカップルへの対応について、皆様と積極的にディスカッションをしたいと思います。セミナー当日は、午後から日本生殖看護学会設立10周年記念式典が開催されますので、皆様お誘いあわせの上、セミナーにも是非ご参加ください。お待ちしております。

教育推進委員会：森 恵美、阿部正子

テーマ 『セックスレス・カップルへの対応について考えよう』

【日 時】平成24年9月8日(土) 10:00~12:00 (9:30~ 受付)

【場 所】聖路加看護大学本館3階 301講義室(東京都中央区明石町10番1号)

【参加費】会員 無料 非会員 1,000円 【定 員】90名(先着)

【プログラム】基調講演「セックスレス・カップルと性医療」 講師：大川 玲子氏
(独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター外来管理部長・産科医長)

【交通のご案内】会場までの道のりは、聖路加看護大学 HP をご参照ください。 <http://www.slcn.ac.jp/access/index.html>
- 地下鉄利用の場合 -

- ・東京メトロ 日比谷線 築地駅下車 3番出口または4番出口より徒歩3分
- ・東京メトロ 有楽町線 新富町駅下車 6番出口より徒歩5分

【お申込み方法】「氏名、ご所属、会員番号、連絡先電話・FAX番号、メールアドレス」を明記の上、
9月5日(水)までにメールもしくはFAXでお申し込みください。

【お申込み・お問い合わせ先】

日本生殖看護学会教育推進委員会(担当：坂上明子)

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野内
電話& FAX 043-226-2411 e-mail: jsfn.edu@gmail.com

◎これから行われる学会・研修会等のお知らせ(2012年9月後半~10月)◎

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP / 運営事務局
9月	29日・30日	日本IVF学会(第15回) 「日本の未来・次世代を考える」	大阪国際会議場 3F イベントホール (大阪市)	日本IVF学会事務局 http://www.ivf-et.net/ TEL:06-6534-8824 FAX:06-6534-8876 E-mail: info@ivf-et.net
10月	4日・5日	日本看護学会:母性看護(第43回) 「未来へ継ぐいのち ~高める 力 支える力 はぐくむ力~」	コラニー文化ホール (山梨県立県民文化 ホール)(甲府市)	http://www.nurse.or.jp/index.html 日本看護協会看護研修学校

*2012年6月4日現在の情報です。詳細は各学会 HP 等でご確認ください。

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらいいのかわからない…等、お気軽にご相談ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス)等を下記までご連絡下さい。よろしく願い申し上げます。

【連絡先】 阿部正子 長野県立看護大学 母性・助産看護学分野

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694

電話& FAX: 0265-81-5159 e-mail: masakoA@nagano-nurs.ac.jp

勉強会等の運営費の助成

生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等の運営費を助成します。助成金は企画1件につき1万円です。日本生殖看護学会ホームページに、応募資格や応募方法等が掲載されていますので、ご覧ください。また、助成に関してご意見等がありましたら、上記勉強会支援の連絡先までご連絡ください。

勉強会報告（関東地区）

報告者：済生会横浜市東部病院 栗城かつみ

信州大学医学部付属病院 小林 由美

はじめに、平成23年3月11日の東日本大震災より1年が経過致しましたが、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今年度は、平成24年1月29日（日）に聖路加看護大学2号館にて勉強会を開催致しました。大変寒い時期の開催でしたが、22名の方にご参加いただき貴重な時間を共有する事が出来ました。講師に佐藤有理先生（京野アートクリニック・不妊症看護認定看護師）と濱田結実先生（スズキ記念病院・不妊症看護認定看護師）をお迎えし、「生殖医療における災害時の対応と看護について考える～不安・疑問を語り合おう～」をテーマに各々ご講演いただきました。講師の先生ご自身も被災者というお立場から、震災後の施設内外の変化や診療状況、事例を通して患者様の心身への影響と必要な支援についてもスライドを用いてご発表頂きました。また、実際に震災を受けてのご経験を活かし既存のマニュアルの再検討と改善をされ、その詳細についても示していただきました。震災時の問題点・改善点は私達が想像しきれない事も多々あり、具体的に提示していただくことでより改善すべき内容をイメージしやすくなりました。また、患者様が受けられる心身への影響はいかなるものであったのか、またそのような際に私達はどのようなサポートをすべきかを改めて考える機会となりました。参加者も関東地域の方が多く、震災の影響を受けている施設もあり、それぞれの施設で起きたことや困ったこと、改善したことや対策したことについてもディスカッションを行い、意見を交わすことができました。

今回の勉強会を通して、交通手段、物資の確保、安全の確保、患者様へのケア、またスタッフ自身の心のケアについても見逃すことの出来ない問題であることを再認識致しました。講演やそれぞれの施設での課題・対策を共有することによって、今後の支援に大いに活かすことが出来るのではないかと感じています。

不妊症看護認定看護師
リレー寄稿

No.
12

「当施設における認定看護師活動について」

4期生 本田 万里子（熊本大学医学部附属病院）

こんにちは、4期生の本田です。昨年の今頃は初の認定更新を控え、必死になって準備をしていました。早いもので1年経過しようとしています。次の更新では慌てないように毎年活動をサマリー化しようと誓いましたがその決意は早くも消えさろうとしています。しかしながら、昨年の認定更新は、5年間の活動を振り返る良い機会になりましたし、今後の活動を展開する上での課題、取り組むべき問題も明らかになりました。同時に自分自身の問題として活動の幅を拓げる困難さもひしひしと感じており、暗中とは言えませんが活動模索の日々が続いています。

私が勤務しております熊本大学医学部附属病院は、昨年度、総合周産期母子医療センターの認可を受けMFICUを開設しました。私はそのMFICUで勤務し、不妊外来（不妊相談室）、助産師外来を毎週各1日担当しています。院内他分野の認定看護師とは専門・認定看護師会議（1回/月開催）を通して、意見交換、共同の活動を行っています。現在、3年をかけ取り組んでいるのが認定看護師におけるコンピテンシーの作成です。来年の春完成予定を目指し、みんなで頑張っています。

個人の活動としては、各分野で自主研修を開催しています。私も院内の看護師を対象とした不妊症看護自主研修（1回/年開催）を行っています。少しでも性・生殖を理解し自己の健康管理、患者の看護に活かせる事ができたらと願い、毎年内容を練り、新しい情報を取り入れながら講義を組み立てています。是非これからも続けていきたいと思っています。

今後、もっと認定活動を充実させたい。と思う反面、MFICUという産科救急の場で3交代勤務し、安全管理、後進の指導も担っていますので、マイペースで病棟勤務と認定活動の両立を目指すことも必要なと考えています。前述の通り活動模索の日々が続きそうです。しかしながら私はラッキーなことに“人”に恵まれています。理解のある上司、スタッフ、そして九州地区生殖看護学会勉強会メンバーの皆さん、4期生の仲間がいます。この方々とのつながりは宝であり様々なヒントやお知恵、刺激も頂いています。皆様のお力を借りながらこれからも微力ではありますが私なりの認定活動を推進していきたいと思えます。

今回は、同じ4期生、蔵本ウイメンズクリニックの久保島美佳さんにバトンタッチします。

理事会報告

第2回理事会

日時：平成24年3月30日（金）18時00分～20時30分
 場所：聖路加看護大学2号館5階ミーティングルーム
 出席：森明、村本、阿部、遠藤、上澤、岸田、清水、
 長岡、野澤、森恵、矢野

【報告事項】

1. 総務：次期役員選挙の選挙管理委員長・選挙管理委員を任命。本学会員を対象に臨床において必要な看護技術についてなどの調査を検討中。
2. 実践開発委員会：本学会員の不妊症看護認定看護師メーリングリストの運用を開始。登録者数は64名。
3. 教育推進委員会：第7回生殖看護実践セミナーの参加者数は60名。第8回は「セックスレス・性交障害と不妊」をテーマに9月8日、聖路加看護大学にて開催予定。勉強会開催の助成に関するヒアリング結果を委員会内で検討予定。
4. 広報委員会：ニュースレター No.32（6月発行予定）では設立10周年を特集記事とする予定。
5. 編集委員会：学会誌第9巻1号の編集作業が進行中。投稿原稿のページ数は、今号まで現行通りとし、次号以降ページ数増を検討予定。
6. 将来検討委員会：平成24年度研究助成の公募期間は4月1日～6月30日の3ヶ月間、助成対象は2件。
7. 第9回学術集会決算報告：残金の学会への寄付および第10回学術集会への繰越について提案があり承認。
8. 第10回学術集会：メインテーマは「第三者の関わる生殖医療における看護の役割」、平成24年9月9日（日）、国際医療福祉大学（小田原）で開催。予算案作成。編集担当理事より各理事へ一般演題抄録の査読依頼と理事以外の学会員の候補者9名を推薦。
9. その他：ASPIREと日本受精着床学会時に開催するiCSI主催ミーティング等の参加は無料。

【審議事項】

1. 入会審査：新規入会希望者8名の入会を承認。
2. 設立10周年記念事業：募金趣意書（案）を提案。寄

付金目標額は50万円、金額の目安を提示。記念式典のプログラムとしてビデオレター上映、記念論文表彰、学会ロゴ発表、映画「うまれる」上映を決定。

3. 第11回以降の学術集会長：第11回～第13回までの学術集会長を理事の互選により推薦。
4. その他：本学会は健やか親子21の促進協会幹事団体に立候補しないことを決定。学術集会等への会員名簿（電子媒体）の提供許可について提案され、取り扱いを明記した文書を取り交わした上で許可が決定。

第3回理事会（書面）

平成24年4月26日（木）

【審議事項】

1. 次期役員選挙：選挙権/被選挙権に関わる会費納入期限を会員に周知していなかったことに対し理事全員から選挙やり直しの要望があり再選挙実施を決定。

第4回理事会（書面）

平成24年5月16日（水）

【審議事項】

1. 入会審査：新規入会希望者10名の入会を承認。
2. 設立10周年記念事業：記念式典運営マニュアル（案）、記念式典予算（案）を総務で作成、内容および各理事の役割について検討。
3. 日本看護系学会協議会平成24年度総会（6月24日開催予定）：本学会から2名まで参加が可能。

【報告事項】

1. 次期役員選挙再選挙の経緯：会費納入期限を5月25日、選挙投票締め切りを6月18日として告知し再選挙を実施。今後に向け総務と選挙管理委員のタイムスケジュール（案）を作成し次回理事会で審議予定。
2. 設立10周年記念事業の寄付状況
3. 看護系学会等社会保険連合（看保連）総会（4月25日開催）：本年度の活動として「診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究」を実施。本学会にも第一次調査の依頼あり。

掲示板

不妊症看護認定看護師教育課程の研修生募集 <聖路加看護大学看護実践開発研究センター>

2013年度の不妊症看護認定看護師教育課程の研修生を募集いたします。

【願書受付期間】：2012年8月20日（月）～8月31日（金）消印有効 【試験日】：2012年9月29日（土）

【研修期間】：2013年6月1日～2014年2月28日

*毎週金曜・土曜の2日間が授業日です。ただし、8月末～9月末の約5週間は平日連日の集中授業、1月～2月の4週間は平日連日の実習になります。

また、併せて2012年度の聴講生も募集しております。

研修生・聴講生募集の詳細は、本学研究センターのHP (<http://rcdnp.slcn.ac.jp/nintei/>) をご覧ください。

もし不妊看護の現場で行き詰まったら…

日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考にしていただけるよう、相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など

◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp>) にアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX: 03-6226-6380 もしくは E-mail: jsin@slcn.ac.jp まで、お気軽にご連絡ください。
2. ニュースレターは郵送ではないので転送されません。転居・転職された方は必ず事務局までご連絡願います。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

重要 会費の納入をお願いします

平成23年度会費(平成23年9月1日～平成24年8月31日の諸活動に伴う会費です)の納入をお願いいたします。

口座番号: 00170-2-333413 加入者名: 日本生殖看護学会 年会費: 6,000円

*ニュースレターに「払込取扱票」を同封してあります。過年度分が未納の方には今年度分との合計額を印字しておりますので、払込取扱票に表示されている金額の納入をお願いいたします。入金確認の時間差もあることから、表示された金額が払込事実と合わない場合には事務局までご連絡ください。

編集後記

いつもじめっとした話題が多いので、今号はワクワクした話から…。皆さんは先日の金冠日食を見ましたか? 当初馬鹿にしていた私も、マスコミの刺激にあおられ、思わず見てしまいました。生憎東京のお天気は曇りで、雲の隙間から一瞬見たという感じではありますが、100年に1回なんて言われると得した気分になりますよね。また、東京の名所が1つ増えました。東京スカイツリーです。ムサシ(634m)にあやかって多くの商品が売り出されました。東京タワーの人気もこれまでかと思えば、東京タワーから見るスカイツリーがまた人気になっているそうです。

梅雨に入って憂鬱な気分になりがちですが、ちょっと見方を変えると、様々なアイデアが出てくるかもしれません。これから看護実践セミナー、10周年記念事業、学術集会と学会の行事も目白押しです。会場でお会いできるのを楽しみにしています。

(広報委員: 野澤美江子、矢野恵子)

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>